

ヒアリング項目	平成 28 年度 第 2 四半期調査	平成 28 年度 第 3 四半期調査
三重県内の景気動向	<p>《A 行》 北勢に比べ中南勢地域は厳しい。</p> <p>《B 行》 為替変動、政策動向の不透明感から企業の動向は保守的である。</p> <p>《C 行》 製造業は全国平均を上回っているが、他業種含め概ね横ばいで推移。</p>	<p>《A 行》 横ばいから、雇用拡大によりわずかに改善傾向がみられる。</p> <p>《B 行》 全体的に改善傾向がみられるも、先行きは不透明。</p> <p>《C 行》 北勢は名古屋圏に引っ張られ活性化。南勢は変化なし。サミットの影響も限定的。</p>
管内の景気動向	<p>《A 行》 建設業が多く原価が上昇傾向。病院や観光施設など計画されている大型案件を地元業者が受注できるかが課題。</p> <p>《B 行》 円高の影響で先行きは明るくないと感じている企業が多い。</p> <p>《C 行》 概ね横ばいで推移しているが、下請が多く発注元の業績に注視が必要。</p>	<p>《A 行》 低水準で横ばい。利益確保できている事業者もあり工夫次第で現状を脱却できる可能性はある。</p> <p>《B 行》 太陽光発電の駆け込み需要、福祉施設の建設など一部動きがみられるが全体的には消極的。</p> <p>《C 行》 小規模・個人事業主が多く、新たな商機が見つからず業況は横ばい。</p>
融資姿勢	<p>《A 行》 住宅ローンを中心に積極的に融資。事業性についても新商品を取扱開始。</p> <p>《B 行》 顧客とのリレーションをはかり支援体制を構築。</p> <p>《C 行》 事業性評価に注力、担保・保証人に依らない融資判断を強化。</p>	<p>《A 行》 資金需要を生み出すような提案を行っているが実績には結びついていない。</p> <p>《B 行》 事業性評価を基に融資判断を実行する。</p> <p>《C 行》 継続して事業性評価による融資判断に注力。</p>
資金需要の動向	<p>《A 行》 宅地造成や短期資金などが一部あるが、全体的に低調。</p> <p>《B 行》 既存借入の借換えなどが多く、新規資金需要は少ない。</p> <p>《C 行》 不動産関連の需要も落ち着き大規模な資金需要は少ない。</p>	<p>《A 行》 運転資金ニーズが高まっている。設備資金は変わらず低調。</p> <p>《B 行》 太陽光発電、福祉施設において資金需要がある。</p> <p>《C 行》 金利負担軽減のため返済が進む傾向にある。また、役員等のオーナーの個人資金で対応するケースもみられ資金需要は低調。</p>

ヒアリング項目	平成 28 年度 第 2 四半期調査	平成 28 年度 第 3 四半期調査
注目業界	≪A 行≫ 宅地造成が進み、住宅メーカーに注目。 ≪B 行≫ 太陽光発電や省エネルギー（住宅など）関連業界。 ≪C 行≫ 特にない。	≪A 行≫ 住宅メーカー、不動産関連が継続して好調。 ≪B 行≫ 住宅業界（個人宅）のニーズが高まっている。 ≪C 行≫ 中勢、北勢に進出している建築業が比較的好調。
創業等の資金需要	≪A 行≫ 新規創業者は少なく、資金需要も少ない。 ≪B 行≫ 小規模事業者の独立資金について相談がある。 ≪C 行≫ 当地区での取扱は少ない。	≪A 行≫ 特にない。 ≪B 行≫ 新規創業は、聞かない。 ≪C 行≫ 空き店舗補助金を活用した相談がみられる。
商工会への要望	≪A 行≫ 特にない。 ≪B 行≫ 適宜情報交換を行い、地元企業との関係構築に協力願いたい。 ≪C 行≫ 連携強化、情報共有を推進し経営改善支援を充実させていきたい。	≪A 行≫ 特にない。 ≪B 行≫ 特にない。 ≪C 行≫ 斎宮駅近辺の観光開発（レストランや地元名産品扱い店舗）の推進。 保証協会小規模事業資金の斡旋。